

CANARE

Value Innovator

2018年度 第46期

第2四半期決算報告書

平成30年1月1日～平成30年6月30日

カネエ電気株式会社
www.canare.co.jp

証券コード：5819

株主の皆様へ

第2四半期連結業績概要

前年同期	当第2四半期
売上高 51.2 億円	55.6 億円 (8.5%)
営業利益 7.3 億円	7.2 億円 (-1.9%)
経常利益 7.6 億円	7.2 億円 (-4.5%)
第2四半期純利益 5.6 億円	5.1 億円 (-9.0%)
1株当たり第2四半期純利益 83.4 円	75.8 円 (-9.0%)
総資産 139.3 億円	147.3 億円 (5.7%)
純資産 122.1 億円	129.1 億円 (5.8%)
1株当たり純資産 1,809 円	1,913 円 (5.8%)

※子会社は、9ページをご覧ください。

ごあいさつ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。第46期(平成30年12月期)第2四半期決算報告書をお届けするにあたり、当社グループの業績概要についてご報告申し上げます。

当第2四半期の当社グループを取りまく経営環境は、平昌五輪およびワールドカップ ロシア大会という世界的なスポーツイベントの開催や放送設備の4K UHD TV (4K ウルトラハイビジョン)への設備更新需要により、国内市場は好調、海外市場は堅調に推移しました。このような中、当社グループは、上記スポーツイベントや4K UHD TV設備への販売およびサポート活動、さらには2020年に開催される東京五輪の設備に向けた販促活動を積極的に行うと共に、中長期的な成長に向けた次世代製品開発や組織体制の改善に努めてまいりました。この結果、売上高55.6億円(前年同期比8.5%増)、経常利益7.2億円(前年同期比4.5%減)、純利益5.1億円(前年同期比9.0%減)となりました。中間配当金は、当初予定どおり23円とさせていただきます。

下半期(7月-12月)の通期業績予想につきましては、国内市場では東京五輪の設備に向けた本格的な製品納入の開始、海外市場では中国放送局の継続的な設備投資やその他海外拠点の体制強化等により、既に発表している通期業績予想の売上高112.9億円(前期比8.0%増)、純利益10.9億円(前期比0.3%増)は達成可能とみております。また、期末配当金は、25円(年間48円)を予定しております。

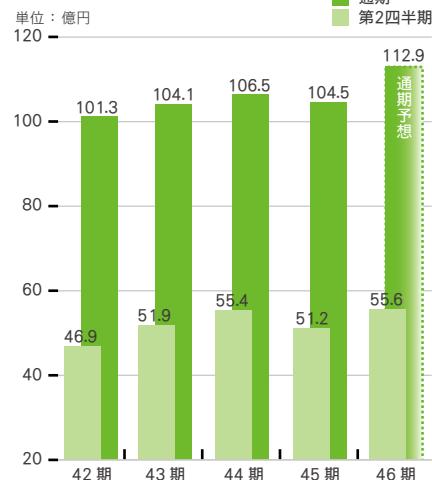
株主様におかれましては、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年9月
カナレ電気株式会社
代表取締役社長
大野 淳一郎

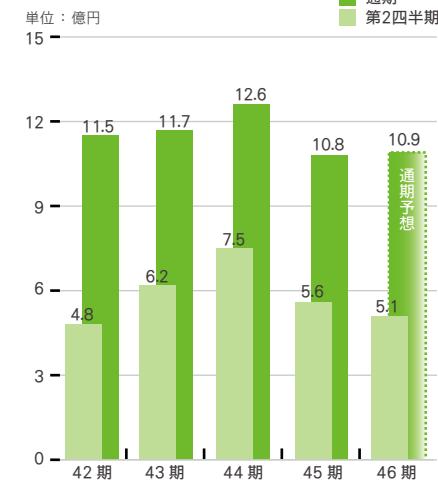



連結業績推移

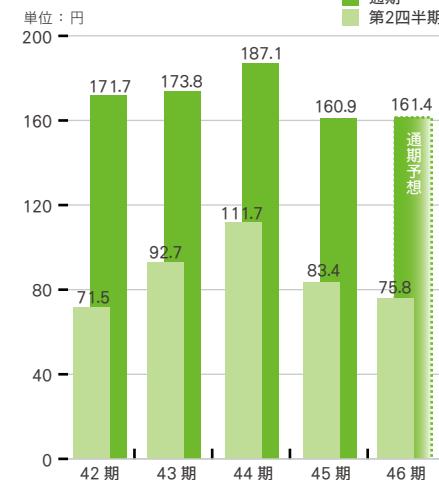
売上高



純利益



1株当たり純利益

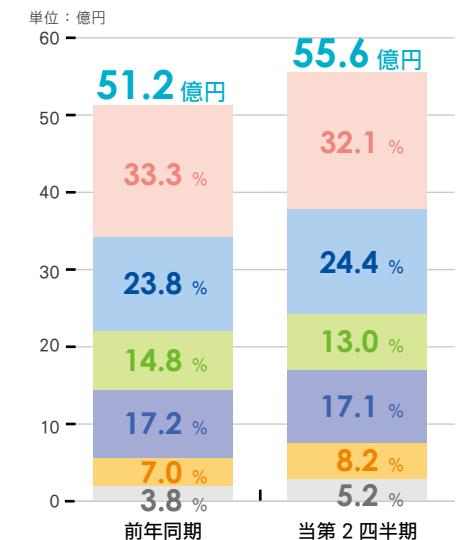


<ご注意!>通期予想は、現在入手可能な情報を基に慎重に策定しておりますが、さまざまな要因の変化から、実際とは大きく異なる可能性がございます。予めご承知ください。

製品別の状況

		前年同期	当第2四半期
	ケーブル 同軸ケーブル 光カメラケーブル など	17.0 億円	17.8 億円 (4.3%)
	ハーネス コネクタ付き接続ケーブル など	12.2 億円	13.5 億円 (11.3%)
	コネクタ BNCコネクタ DINコネクタ など	7.5 億円	7.2 億円 (-4.8%)
	パッシブ機器 AVコンソール製品 ビデオバッチ盤 など	8.8 億円	9.5 億円 (7.6%)
	電子機器 光コンバータ など	3.6 億円	4.5 億円 (26.9%)
	その他 他社購入品 など	1.9 億円	2.9 億円 (48.2%)
	合計	51.2 億円	55.6 億円

■ 構成比



Q1 第2四半期の業績はどうでしょうか？

A. 国内市場は景気回復基調が継続する中、設備投資が活発化し、売上高も好調な結果となりました。特に今年12月1日から始まるBS・110度CSの4K/8K実用放送向けの設備更新や広島テレビの新局舎大型プロジェクトなど、放送市場が好調に推移したことが要因となり、33.8億円（前年同

期比13.1%増）という結果となりました。海外市場は米国と各国間の貿易摩擦や近隣諸国の政治的リスクなどにより、引き続き不透明な状況ではありますが、継続的な中国放送局の設備投資や欧州拠点再構築の効果により、21.7億円（前年同期比2.0%増）という結果となりました。

Q2 海外拠点の状況はどうでしょうか？

A. 当第2四半期の海外売上高は堅調に推移し、その中でも中国（前年同期比11.1%増）と欧州（前年同期比124.4%増）の売上は増加しました。中国の放送局内では当社製品が高いシェアを維持しておりますが、この状況は、これまでの製品普及活動とサポートにより放送局と良い信頼関係を築けているためです。現在は競技場やコンサートホールなどの電設市場でも同様の関係構築を進めており、これまでの課題であった電設市場へ

の普及が進んできたことから、当第2四半期も安定した伸びを見せております。設立2年目のカナレヨーロッパも好調です。まだ売上額は低く、カナレグループ全体の比率もそれほど多くはありませんが、前年同期比124.4%増と高い成長率であり、新体制が軌道に乗り、よりきめ細かい営業活動ができるようになったことが要因となりました。今後カナレグループの売上高の中心になることを期待しております。

Q3 下半期に取り組むべき課題は？

A. 国内市場は東京五輪やBS・110度CSの4K/8K実用放送設備に向けた本格的な製品納入が始まります。採用いただいた製品をお客様に納入する段階になりますので、確実にお客様へお届けできるよう、さらなる納期管理、在庫管理、品質管理の改善に努めます。それと同時に、来年・再来年とまだまだ続いていく東京五輪関連の需要や放送局の設備更新に向けて、種まき

活動も継続してまいります。海外市場におきましては、新たに設立された拠点も含め販売拠点との連携を密にすることにより、各拠点の地域戦略を進めてまいります。不透明な情勢は続く見込みですが、そういった外的要因に左右されず、常にお客様に選んでいただけるような営業体制作りにも努めてまいります。

Canare Middle East FZCO インタビュー

UAE拠点は、中東市場のみならず、アフリカ市場攻略のため2017年よりスタートしました。そこで担当スタッフに大野社長がインタビューしました。



大野社長 Momenさん 三谷さん



大野：中東市場について詳しく教えてください。

Momen：湾岸アラブ諸国では、脱原油に向け各国がさまざまな経済政策を取り組み始めています。UAEでは2018年1月からついに付加価値税VAT(5%)が導入され、2020年のドバイ万博に向けて大規模なインフラ整備が進行しており、中東の商業HUBとしてますます経済の活発化が期待できます。サウジアラビアでは、近代化に向けさまざまな投資が行われ、実際に多くの映画館などのレジャー施設も建設中です。パキスタンでは、今年7月に総選挙が行われ、関連事業での需要が見込まれます。エジプトを含む北アフリカ地域も経済成長がめざましく、新規市場としての期待値が高まっております。

三谷：中東は今、変革の時を迎えています。それは我々にとっては大きなビジネスチャンスです。イランと米国との関係悪化、サウジアラビア、UAE、エジプトなどによるカタールとの断交等、懸念要素も多々ありますが、臨機応変にリスクを回避し、積極的な営業活動により、売上高目標達成を目指します。

大野：上半期の業績結果および市場の動向はどうでしょうか？

Momen：2018年上半期の売上高はUSD420K超。予定していた物件の納入が一部下半期にずれ込んだため、目標対比8割程度となりましたが、下半期では挽回できる見込みです。主に放送市場への納入が多く主力製品は、同軸ケーブル、BNCコネクタ、ビデオパッチ盤、光カメラケーブル等です。

三谷：潜在的にポテンシャルの高い中東の中心地区ドバイに拠点を設立したことが功を奏し、地元UAEの売上高が好調です。地理的な距離が縮まり、今まで以上にきめ細やかで迅速なサポートができるようになったことと、現地での在庫を持つことによる納期短縮、物流コストの削減は大いに歓迎されています。

大野：どこに主眼を置いた活動をしていますか？

Momen：3つの柱を中心に活動を展開します。

1) 5つの重点地域

サウジアラビア、カタール、イラン、パキスタン、そしてエジプトを重点的に攻略します。これらの地域には取り組むべき案件があります。UAEはドバイ万博、サウジアラビアは近代化政策に伴う映画館などのインフラ整備、カタールは2022年ワールドカップ、イランはIRIB(国営放送)光カメラ関連の更新、パキスタンは総選挙に関連する設備投資、そしてエジプトでは新都市建設や、放送局スタジオの更新が予定されています。特にエジプトは私の出身国でもありますので、人脈を活かし、

地域に根ざした密着営業を行い、エジプト市場への本格的参入を目指します。

2) 地元UAEの基盤固め

UAEのSI(システムインテグレーター)、コンサルタントは、中東・アフリカ・CIS(独立国家共同体)と幅広い地域の物件を手がけることが多く、CMEにとって大変重要なビジネスパートナーです。ドバイに拠点を置くことにより、彼らの元を直接訪問することができるようになりました。日本からでは実現できなかったパートナーとの対面コミュニケーションにより、より親密で建設的な関係を築いていきます。アラブ社会では、時として特有の文化的背景に根ざしたビジネスマナーも必要となりますので、アラブ語でのコミュニケーションはしばしばスムーズな交渉を可能にします。パートナーと活発に交流し、市場ニーズをより深く知り、それに丁寧に応えていくことでさらに信頼関係を深め、UAEでの基盤を堅固なものにしていくことが急務です。

3) 光カメラケーブルの加工業者認定

光関連製品の拡販戦略のKEYとして、カナレ製光カメラ接続ケーブルの加工、メンテナンスができる認定業者を各エリアに置くべく、認定作業を進めております。光カメラケーブルの故障や、急な需要の際にも、現地でタイムリーな対応が可能となり、日本との往復運賃もかかりません。現在ドバイの業者が認定作業中で、今後サウジアラビアをはじめ他国でも認定を推進していきます。

大野：下半期予想と今後の予想はいかがでしょう？

三谷：下半期も概ね見通しは良好です。前述の3つの柱に沿って、UAEおよび重点国での売り上げを確実に確保することにより、下半期USD560K、2018年通期USD980Kの売上高達成を目指します。アラブでは一般的に夏の間ビジネスがスローダウンしてしまう傾向があります。CMEではその期間の販売の落ち込みを回避すべく、キャンペーンを行います。主要ビジネスパートナー数社をターゲットに、秋以降の物件の先取り在庫も含めた在庫発注を促すため、まとめ発注に対して特別価格で提供します。

Momen：また、現在中東市場では欧米系ケーブルブランドが高いシェアを持ち、コネクタ、光カメラもそれぞれの国に競合他社が存在します。我々はまず、他社製品の強みと弱みを知るための市場調査を行います。具体的には、価格、品質、サービス拠点の有無、納期などの点です。その上で、それぞれの地域・製品の状況にあった戦略を立て、当社の強みである、高品質、決め細やかなサービス、そして短期期といったアドバンテージを、粘り強く訴求していきます。

第2四半期連結財務諸表

第2四半期連結貸借対照表の要旨

(単位 千円)

資産の部	第2四半期 2018.6.30	前年同期 2017.6.30	負債の部	第2四半期 2018.6.30	前年同期 2017.6.30
流動資産	12,289,176	11,395,565	流動負債	1,520,326	1,408,561
現金および預金	8,154,468	7,739,477	買掛金	544,321	538,114
受取手形および 売掛金	1,388,753	1,233,013	未払金	195,038	126,941
棚卸資産	2,142,254	1,948,871	賞与引当金	82,812	80,752
繰延税金資産	177,285	188,782	役員賞与引当金	27,829	26,890
1 その他	432,921	294,585	3 その他	670,324	635,863
貸倒引当金	▲ 6,506	▲ 9,165	固定負債	297,303	315,297
固定資産	2,444,873	2,541,484	長期未払金	854	-
有形固定資産	1,219,436	1,234,985	退職給付に係る 負債	12,437	11,196
建物および構築物	238,770	216,993	役員退職慰労 引当金	57,728	65,103
機械装置および 運搬具等	208,230	246,207	4 その他	226,283	238,997
土地	772,435	771,783	純資産の部	第2四半期 2018.6.30	前年同期 2017.6.30
無形固定資産	133,448	130,827	株主資本	12,827,709	12,128,326
2 投資および その他の資産	1,091,988	1,175,672	資本金	1,047,542	1,047,542
			資本剰余金	1,175,210	1,175,210
			連結剰余金	10,940,558	10,241,174
			自己株式	▲ 335,601	▲ 335,601
			評価・換算差額等	88,709	84,864
			その他有価証券 評価差額金	107,886	123,437
			繰延ヘッジ損益	35	▲ 17
			土地再評価差額金	▲ 371,051	▲ 371,051
			為替換算調整勘定	351,839	332,495
資産合計	14,734,050	13,937,050	負債・純資産合計	14,734,050	13,937,050

- point 1**
・加工委託先への有償材料など 190百万円
- point 2**
・投資有価証券 874百万円
- point 3**
・未払法人税など 217百万円

- point 4**
・繰延税金負債 177百万円
- point 5**
・受取利息・配当金 12百万円
・賃貸収入 3百万円

- point 6**
・為替差損 12百万円
・投資事業組合運用損 2百万円

第2四半期連結損益計算書の要旨

(単位 千円)

科目	第2四半期 2018.1.1~6.30	前年同期 2017.1.1~6.30
売上高	5,561,851	5,127,849
売上原価	3,251,876	2,964,010
売上総利益	2,309,975	2,163,839
販売費および一般管理費	1,584,998	1,425,021
営業利益	724,977	738,817
営業外収益	21,257	33,307
6 営業外費用	17,172	8,374
経常利益	729,063	763,750
特別利益	-	40,737
特別損失	-	-
税金等調整前 第2四半期純利益	729,063	804,488
法人税、住民税 および事業税	237,677	232,791
法人税等調整額	▲ 20,737	8,786
第2四半期純利益	512,123	562,910

第2四半期連結キャッシュ・フロー

(単位 千円)

	第2四半期 2018.1.1~6.30	前年同期 2017.1.1~6.30
7 営業活動によるキャッシュ・フロー	370,489	632,312
8 投資活動によるキャッシュ・フロー	42,193	▲ 117,469
9 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 168,738	▲ 168,738
現金および現金同等物に係る換算差額	▲ 42,026	▲ 12,413
キャッシュ・フロー計	201,917	333,690

- point 7**
・税引前純利益 729百万円
・棚卸資産の増加 ▲128百万円
・売上債権の増加 ▲139百万円
・法人税等の支払額 ▲162百万円

- point 8**
・定期預金の払戻による収入 159百万円
・投資有価証券の取得による支出 ▲100百万円

- point 9**
・配当金の支払額 ▲168百万円

自己資本比率 (第2四半期連結)



自己資本純利益率 (ROE / 第2四半期連結)



売上高経常利益率 (第2四半期連結)



1株当たり純資産 (第2四半期連結)



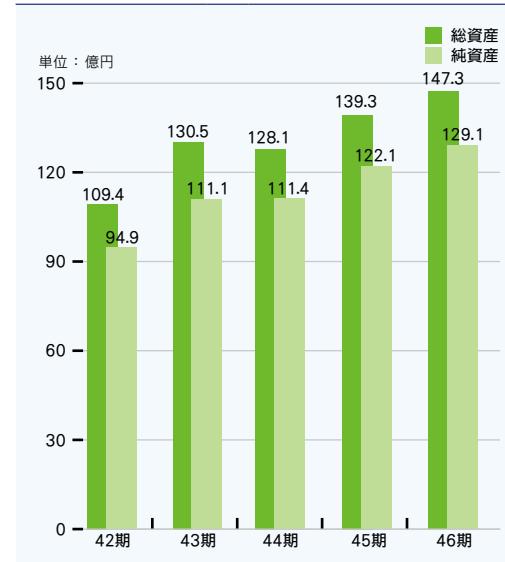
1株当たり純利益 (第2四半期連結)



売上高純利益率 (第2四半期連結)



財産状況推移 (第2四半期連結)



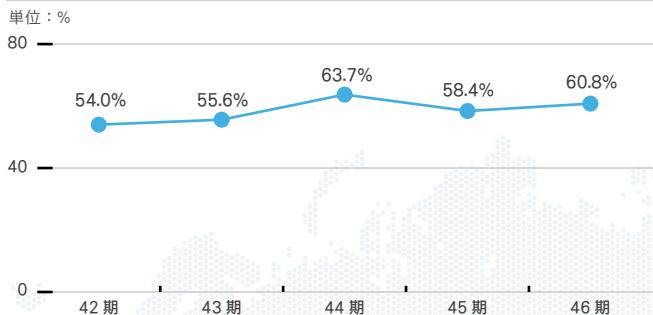
業績推移 (第2四半期連結)



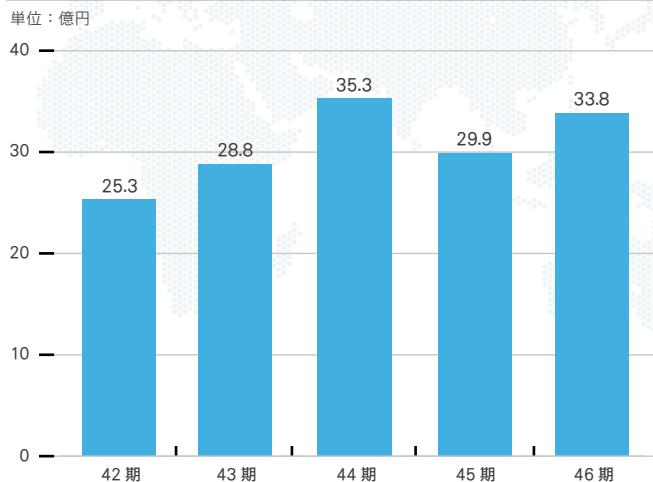
市場別売上高・構成比推移

国内市場

■ 構成比



■ 売上高

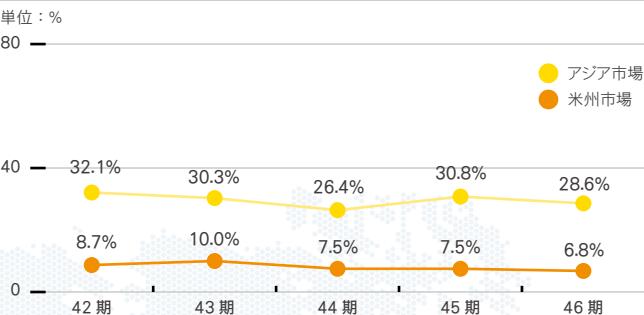


前年同期に比して放送市場などの大型物件注が増加したことに加え、電子機器・AVコンソール製品の売上増加により、売上高は前年同期比13.1%増になりました。

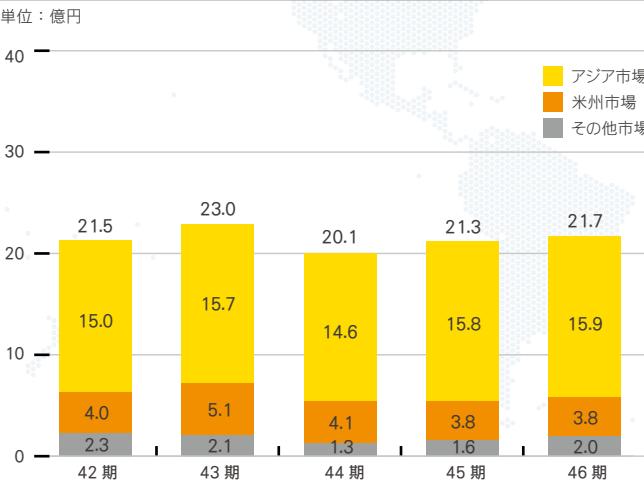
※子会社は、9ページをご覧ください。

海外市場

■ 構成比



■ 売上高



米州および中国以外のアジア地域は販促活動を強化してまいりましたが売上は減少。中国と欧州は放送市場の需要増により売上が堅調に推移した結果、海外売上高は前年同期比2.0%増となりました。

株式の状況 (2018年6月30日現在)

発行可能株式数 23,092,200 株

発行済株式の総数 7,028,060 株
(内 自己株式数 278,514 株)

単元株式数 100 株

株主数 8,655名
(前第2四半期末比 180名増加)

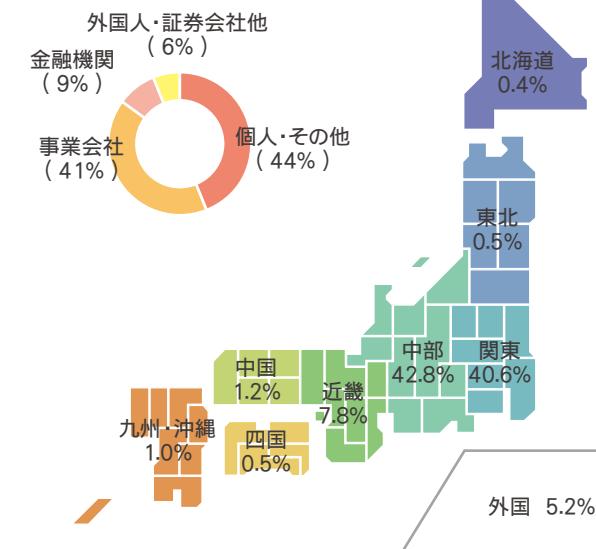
大株主

株主様名	所有株式数 (単位:千株)	出資比率 (単位:%)
有限会社香流	800	11.3
株式会社新高輪	800	11.3
株式会社センリキ	350	4.9
川本公夫	300	4.2
カナレ電気株式会社 (自己名義)	278	3.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	232	3.3
加藤宣司	200	2.8
川本重喜	200	2.8
株式会社ノダノ	200	2.8
合同会社カワシマ	200	2.8

●所有株式数は千株未満を、出資比率は小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。

株主様分布 (議決権個数の割合による)

[所有者別] [地域別]



株主優待

カナレ電気の株主優待制度

基準日現在の株主名簿に記載され、かつ100株以上を保有されている株主様へ半期ごとに株主優待品を贈呈いたします。

同封いたしましたので、ご確認ください。



(クオカード)

決算日	保有株式数別 優待		お届け時期	贈呈方法
	100株以上 200株未満	200株以上		
2018年 6月30日	クオカード 1,000円分	クオカード 2,000円分	今回同封	「第2四半期決算報告書」に同封
2018年 12月31日			2019年 3月中旬(予定)	「株主総会決議通知」に同封

会社概要

会社概要 (2018年6月30日現在)

商号 カナレ電気株式会社
 本社 東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビルB館13F
 (登記上の本社 愛知県日進市藤枝町)
 設立 昭和49年(1974年)2月 (創業:昭和45年)
 資本金 10億4,754万円
 従業員数 111名 / グループ: 269名
 (パート、派遣社員は含まず)
 事業所 東京本社、名古屋本社、横浜事業所、
 横浜営業所、名古屋営業所、大阪営業所、福岡営業所、
 光デバイス開発部

子会社

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 カナレハーネス株式会社 | 7 Canare Singapore Private Ltd. |
| 2 Canare Corporation of America | 8 カナレシステムワークス株式会社 |
| 3 Canare Corporation of Korea | 9 株式会社カナレテック |
| 4 Canare Corporation of Taiwan | 10 Canare Electric India Private Ltd. |
| 5 Canare Electric (Shanghai) Co.,Ltd. | 11 Canare Europe GmbH |
| 6 Canare Electric Corporation of Tianjin | 12 Canare Middle East FZCO |



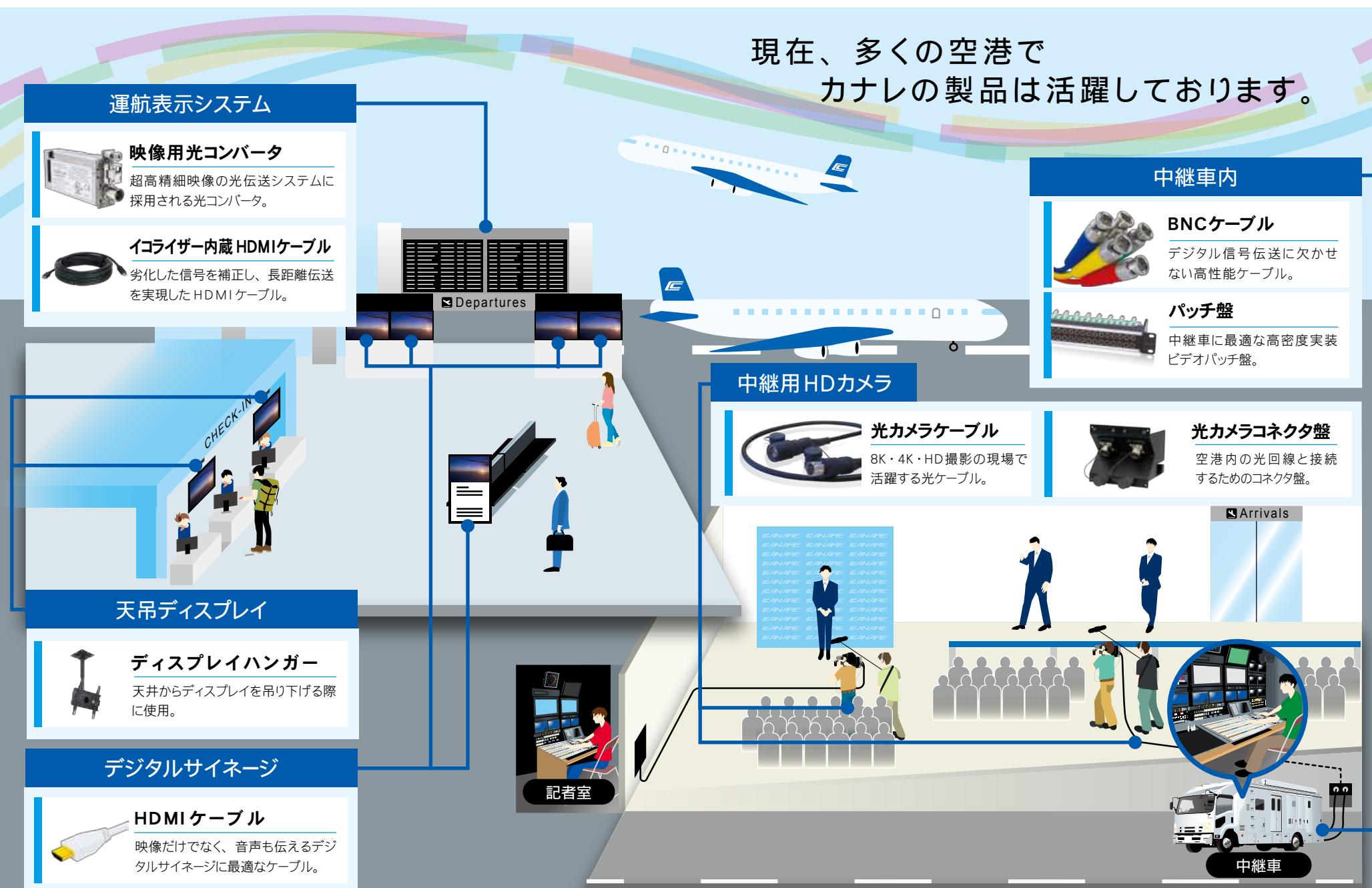
※子会社の記載順序は設立順です。

取締役および監査役

代表取締役社長	大野 淳一郎	社外取締役	豊中 俊榮
取締役	後藤 晃男	社外取締役	戸田 裕三
取締役	吉森 直樹	常勤監査役	小野 地佳文
取締役	中島 正敬	監査役	財田 洋一
取締役	小淵 敦	監査役	田中 耕一郎
取締役	祖父江 秀行		
取締役	野田 爾		

IR情報に関するお問い合わせ先 小淵 敦 TEL 03-6435-6940(代)

現在、多くの空港で
カナレの製品は活躍しております。



運航表示システム

映像用光コンバータ
 超高精細映像の光伝送システムに採用される光コンバータ。

イコライザー内蔵 HDMIケーブル
 劣化した信号を補正し、長距離伝送を実現した HDMI ケーブル。

中継車内

BNCケーブル
 デジタル信号伝送に欠かせない高性能ケーブル。

パッチ盤
 中継車に最適な高密度実装ビデオパッチ盤。

中継用HDカメラ

光カメラケーブル
 8K・4K・HD撮影の現場で活躍する光ケーブル。

光カメラコネクタ盤
 空港内の光回線と接続するためのコネクタ盤。

天吊ディスプレイ

ディスプレイハンガー
 天井からディスプレイを吊り下げる際に使用。

デジタルサイネージ

HDMIケーブル
 映像だけでなく、音声も伝えるデジタルサイネージに最適なケーブル。

記者室

中継車

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月

配当の基準日 毎年6月30日および12月31日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号
三井住友信託銀行株式会社
証券代行部
0120-782-031(フリーダイヤル)

同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社
本店および全国各支店

住所変更も 証券会社へ

■住所・氏名など届出事項の変更について

証券会社等に口座をお持ちの株主様 … 口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。
特別口座をお持ちの株主様 …………… 下記連絡先(三井住友信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。
なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取次ぎします。

■未受領の配当金のお受け取りについて

支払期間経過後の配当金については、三井住友信託銀行までお問い合わせください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

三井住友信託銀行
証券代行部 **0120-782-031** (フリーダイヤル)

カネシ電気株式会社

東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビルB館13F
TEL.03-6435-6940 FAX.03-6435-6944

